

特集：Society 5.0 に向けたオンライン学習および
AI・数理・データサイエンスと人材育成支援に関わる教育システム

遠隔授業履修者支援を目的とした 主体的学習と有能感との関係分析

白澤 秀剛*

Analyzing the Relationships between Learning and Perceived Competence for Student Support in Distance Learning

Hidetaka SHIRASAWA*

1. はじめに

2020年度はコロナ禍の影響を受け、日本の多くの大学で遠隔授業または対面と遠隔の併用授業が実施されることとなった。文部科学省の2020年度後期等の授業の実施方針に関する調査⁽¹⁾によれば、2020年度後期授業では8割の大学が対面と遠隔の併用授業を実施し、そのなかでほとんど遠隔で実施する大学が約2割となっている。同調査では、約4割の大学で学生の不安の払拭に取り組んだり、9割の大学で学生の相談窓口などを設置したりといった対策を行っており、遠隔授業において学生サポートの重要性を大学が認識していることを示している。

今後のSociety 5.0時代において個別最適化された学びの実現が予想されるなかで、遠隔授業は決してコロナ禍の一時的なものではなく、今後も授業形態として重要な役割を担っていくものである。遠隔授業で学習効果を高めるには、単に遠隔授業の質を高めるだけでなく、学習する学生をどのようにサポートしていくのかという問題も同時に考えることが重要である。

一方、学生側から遠隔授業を見た場合、ほかの学習者の様子が把握できない、または把握しにくい環境のなかにいるため、自分の学習態度が適切か、自分の学習方法が適切かを自己で判断する必要がある。すなわ

ち、他者との比較ではなく、自分自身を省みて、また授業や課題における教員からのフィードバックを頼りに自己の学習を律していかなければならない。2018年の全国大学生調査⁽²⁾によれば1週間の自宅学習時間の平均は1~5時間程度との調査結果があり、自らを律して学習に向かう姿勢が身に付いている学生は少ないと推測される。自らを律して学習を継続するためには、自分の学習行動を自己で正しく評価し、適切な学習行動を自らで肯定して継続することが求められる。

内田らはRosenbergの自尊感情を「自らの基準に照らして、たとえ欠点があったとしても『これでよい』と自分を受容することから生じる」と紹介している⁽³⁾。また、内田らは中学生での調査結果で「教師に対する信頼感の高い生徒の方が、教師に対する信頼感の低い生徒に比べ、自尊感情が高く、身近な教師がいると答えた生徒の方が、いないと答えた生徒に比べ、自尊感情が高かった」と報告している⁽³⁾。中学生と大学生を単純比較することはできないが、遠隔授業によって大学教員のフィードバックが減少することで、自尊感情が低下し、自己の学習に対して不安を感じる事が考えられる。すなわち遠隔授業において他者と比較することが難しい状況で自己を律して学習を継続することができるかどうかは自尊感情と密接に結びついているのではないかと仮説を立てた。

* 東海大学理系教育センター(情報教育センター)(STEM Education Center, Tokai University)

受付日：2021年6月16日；再受付日：2021年10月13日；採録日：2021年11月26日